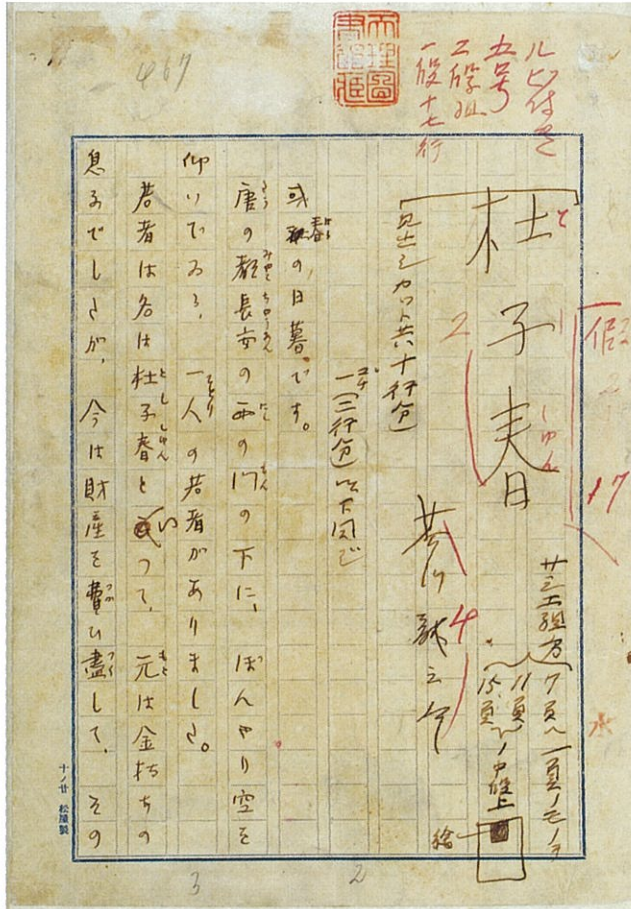


やまとの名品 天理図書館



とししん 杜子春

芥川龍之介自筆 1冊

大正9年(1920)

縦28cm 横19cm

芥川龍之介（一八九二～一九二七）の「杜子春」は『赤い鳥』大正九年七月号に掲載された。龍之介二十八歳の時の作品である。

杜子春は仙人になることを望んで鉄冠子の弟子となり、何があつても声を出さないという試練を課せられる。子春はいくつもの苦しみに耐えきつた。しかし、母親が地獄で鬼に打ちのめされて息絶え絶えながらも自分のことを思う気持ちに心を打たれ、ついに声を出してしまう。試練に失敗した杜子春に鉄冠子は、もしお前が黙っていたら命を絶っていたと告げる。そして、子春は人間らしく正直に生きる

ことを決意して物語は終わる。

「杜子春」は、中国に伝わる「杜子春傳」を元に書かれた。

龍之介は『赤い鳥』掲載時の原稿の最後（挿図参照）に、「杜子春傳」とは「所々、大分話が



違つてゐる」と記している。

「杜子春傳」の子春は、試練の中で女性へと生まれ変わり、自分の子どもが殺されかけたところで声を上げ試練に失敗する。仙人に「声を上げなければ仙人

になつていたのに」と言われ、そのことを嘆き悲しんだところで物語が終わる。

また、とある手紙には「杜子春」の三分の二以上は創作であり、鉄冠子は『三国志演義』に登場する道士の左慈のことだとも書いている。

元の話と比べると分かるように、杜子春の物語は龍之介によつて児童向けの道徳的な物語へと作りかえられた。その思案した様子は、掲出した原稿に多く加えられた推敲の跡からも感じられる。

なお、この原稿は本館内のパソコンでご覧いただけます。

（天理図書館 高室慶助）

天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <https://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○11月の休館日：23日・29日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）